

16. 長国寺・松原神社・諏訪神社

(1) 長国寺

文明2年（1470年）に島崎城主第13代島崎長国が創建し、永正年間（1504～21年）に現在地に移転しました。曹洞宗の寺院で山号を大興山と号し、本尊の聖観音立像は市指定文化財になっています。墓地には島崎氏及び家臣の墓石などがあり、樹齢約400年のイヌマキの雄樹は市指定文化財になっています。

また、境内には江戸時代の医師、俳人で松尾芭蕉と親交のあった本間道悦（号：自準亭松江）の墓や天狗党殉難者のリーダーで後に従5位に列せられた前島徳之介の墓標もあります。



長国寺入り口



長国寺本堂



本間道悦墓



前島徳之介墓標



イヌマキの雄樹

(2) 松原神社

敦賀で処刑された天狗党のために、地元の人が処刑者の墳墓の近くに松原神社を建立し、その靈を祀りました。上戸村横須賀出身の吉川忠蔵もその一人で、長男・与平次は父親の靈ばかりでなく、上戸村出身で行動を共にし、敦賀で処刑された者の靈を祀るため横須賀に松原神社の分社を自費で建立しました。与平次が明治31年（1898年）に記した「松原神社詣記」によると、同年県知事や軍関係者など福井県を挙げて、松原神社の大祭が挙行されましたが、招待を受けながら天狗党遺族として出席したのは、「吉川与平次ただ一人」で、主催者の熱烈な歓迎を受けたと記しています。

旧牛堀町域の上戸村では、庄屋家の前島徳之介が天狗党の挙兵に加わった関係で、参加者が特に多いです。天狗党に加わり討死にし、あるいは刑死した者は牛堀村、永山村、堀之内村、茂木村、清水村、島崎村などで70名に達します。



松原神社



石碑

(3) 諏訪神社

御祭神 建御名方神（タケミナカタノカミ）

諏訪神社にある市指定文化財「応永7年銘 阿弥陀三尊種子板碑」は碑面の上部に二条の線が刻まれ、中央および天蓋の下に阿弥陀三尊の主尊阿弥陀如来の「キリーク」左右に観音菩薩の「サ」、勢至菩薩の「サク」の梵字を施してあります。また下に蓮華座を刻しています。（応永7年は1400年）

板碑は主に供養塔として使われる石碑の一種です。板石卒塔婆、板石塔婆とも呼ばれ、中世仏教（主として鎌倉時代中頃から、南北朝、室町時代）に使われ、江戸時代初期には姿を消しています。死者への追善供養や信仰の対象物として造立しました。

基本構造は板状に加工した石材に梵字=種子（しゅじ）や被供養者名、供養年月日、供養内容を刻んだものです。頭部は二条線が刻されます。

実際には省略される部位もあります。

神域には天照皇大神、春日大社、金毘羅宮、浅間神社、阿夫利神社、大山石尊などの山岳信仰の参拝記念碑も建立されています。



板碑説明碑



阿弥陀三尊種子板碑